

林市長の訓示（令和2年11月16日）

朝、みなさんから迎えられ大変うれしく思いました。何よりもうれしいのは、またみなさんと仕事が続けられることです。本当に市民の大きな思いが選挙には表れ、一日の空白もなく、非常事態の中を進んでもらいたいという思いの表れだったと解釈しております。これからも懸命に職務に努めてまいりますので、みなさんからもぜひ一丸となって務めていただきますようお願いいたします。

南魚沼市長選挙では身に余る信任をいただきました。これを風と受け止め、力強い風をいただいたと思っています。謙虚にまた初心に立ち返り、この市の抱える大きな課題に対し、難しい問題から果敢に取り組んでいきたいと考えております。何といても、市長の最大の職務は、市民の命と安全、そして暮らしを守ることだと思っています。

南魚沼市役所をあげて、これと一緒に取り組んでまいります。大変なコロナショックであり、市民の不安はピークにきている状況です。この中でクラスターの概要をきちんと把握し、一つ一つを潰していく作業をしてまいりました。また、現在経済におけるたいへん暗い気持ちが市民に溢れていることも事実で、この選挙期間中にそれを確認しながら歩いてきました。一方で守り、一方で経済を立て直していくということは、非常に厳しいものがありますが、ここでみなさんに少しだけほっとする話題をお伝えしたいと思います。

このたびの南魚沼警察署から始まったクラスターについて、連日、当市の保健師のみなさんの応援も含めて、保健行政については大変な努力と、心が折れそうになるようなつらい毎日が過ごされてきたと思います。市内感染者が今20人います（11月16日現在）。しかし、警察官に関するPCR検査はすべて完了しており、その濃厚接触者の中で、確認された陽性患者やその周辺の濃厚接触者の特定が現在順調に進んでいます。本日（11月16日）入ってきた検査結果はすべて陰性でした。現在も自宅待機や経過観察中の方もいらっしゃるのですが、100%とは言えませんが、このたびのクラスターにつきましては、完全に終息に向かっているということを確認しています。

市長メッセージとして、市民のみなさんにもその事実をきちんとお伝えして、必要以上に怖がりすぎないように、そして、平穏な日常と活気ある経済を取り戻せるよう呼びかけたいと考えています。

経済活動では、例えば忘年会はすべてキャンセルという切実な声が数多く寄せられています。一步留まって、ほんの数日考えていただき、これから新たな発生がない限りは、この1週間のコロナショック前の状況に戻ったということをみなさんに伝えていながら、市民の暮らし、産業を守っていきたくて考えているところです。たいへんな課題ではありますが、職員のみなさんも敢然とこれに立ち向かってもらいました。加えて言うならば、市民の冷静さを保った今回のあり方も特筆すべきことがあったと思っております。

いずれにしても、南魚沼市には抱えている問題が山積しています。これまでと同様に、南魚沼市を引き上げるためのトップセールスマンとして、市長が先頭に立って頑張っていく姿勢をこれから4年間も堅持したいと考えています。

南魚沼版のインフラ整備を進めたいと思いますが、大きく4つあると思っています。

1つは、医療体制の問題です。これは予断を許さない状況です。しかし、寄附講座の開設で医師が市内に入ってくるという一步を示せたと思います。これらもまだまだ脆弱なものがあるので、一生懸命に取り組み、これから持続可能な医療のまちづくりの第一歩を実行する形で、検討を開始するための医療対

策本部をすぐさま設置したいと考えています。

2つ目に、新ごみ処理施設の問題は、任期中に完成しえなかったたいへん大きなテーマですが、これについてもすぐさま対応を開始し、できれば早期に立地場所を決め、その脇に作るべき福祉、さまざまなお年寄りの課題等も併せ持った、健康増進の施設等をきちんと市民の前に示し、そして将来にわたる不安も、このごみ処理施設の問題だけでなく、併せて取り組んでいきたいと考えているところです。

3つ目に、松井さんからのご寄附で基金を創設した人づくりの課題です。将来にわたる南魚沼市の非常に大きな課題だと考えており、これらをもって産業界のみなさんとも連携を図りながら、南魚沼市の将来像を示せる形をとっていきたいと考えています。

最後に、雪資源活用事業についてです。我々はオリンピックに雪を持っていくことが目的ではなく、その先の産業化、将来にわたって雪を利用しながら、世界的なテーマになっている自然エネルギーやさまざまな課題について、雪国発で立ち向かえるということを示せるまち、雪冷熱の利活用の日本一のまちづくりといったことを大きく掲げて進むことが、子どもたちの誇りにもなり、将来にわたる産業の底辺に大きく関与する課題だと考えているので、果敢に取り組んでいきたいと考えています。

4年の助走期間を経て、自分としてはこれからようやく仕事ができるべく4年間と捉えています。そして、言い続けました「やれないことを先に言う(理屈をつける)のではなくて、どうやったらできるのか」という姿勢でみなさんと一緒に楽しく、目標を持って仕事をしていきたいと考えています。

終わりに、井口前市長が私に言ってくれた言葉が私の座右の銘になりました。「一燈を提げて暗夜を行く」という言葉です。一燈は足元を照らす提灯で、私としては志だと思っています。職員のみなさんも、思いは同じであろうと思います。小さい薄暗い光りも、集まればたいまつのような光になるということです。みなさんからも今一度、地方自治体の、市民の先頭に立つ職員としての在り方を一緒に共有していただき、すばらしい南魚沼の建設に、共に力を貸していただき、進めていただければと思っています。

私の2期目にかかる思いと、みなさんの協力へのお願いをもって、訓示としたいと思います。

これから4年間、またよろしく願いいたします。

令和2年11月16日

南魚沼市長 林 茂男